

第3章 事業費と財源措置

1 「第4期実行5か年計画」の事業費及び新規必要額

5年間（令和4～8年度）に推進する水源環境保全・再生のための特別対策の事業費及び新規必要額は、次のとおりです。

単位：百万円（5年間計）

中柱	番号	事業名	事業費	うち新規必要額
森林の保全・再生	1	水源の森林づくり事業の推進	12,731	6,231
	2	丹沢大山の保全・再生対策	1,546	1,546
	3	土壌保全対策の推進	1,826	1,826
	4	間伐材の搬出促進	1,411	1,411
	5	◆地域水源林整備の支援	3,333	3,333
河川の保全・再生	6	◇河川・水路における自然浄化対策の推進	947	947
地下水の保全・再生	7	◇地下水保全対策の推進	577	577
水源環境への負荷軽減	8	◇生活排水処理施設の整備促進	8,008	4,562
県外上流域対策の推進	9	相模川水系上流域対策の推進	217	217
水源環境保全・再生を推進する仕組み	10	水環境モニタリングの実施	1,095	1,095
	11	県民参加による水源環境保全・再生のための仕組み	208	208
合 計			31,899 (6,379)	21,953 (4,390)

（ ）内は単年度平均

◇ 市町村の取組事業

◆ 市町村の取組を一部含む事業

2 水源環境保全・再生に向けた特別対策の財源措置の考え方

① 水源環境保全・再生施策の位置付け

ダム建設等の水源開発と、森林整備等の水源環境の保全・再生のための取組は、将来にわたり県民の水資源を確保するための密接不可分な一連の取組です。

水資源対策の第1ステージ	水資源対策の第2ステージ
<ul style="list-style-type: none">・ 新たな水源開発による水量の拡大・ 水を利用するための施設整備	<ul style="list-style-type: none">・ 既存水源の保全による水量の維持と水質の向上・ 水を育む環境の整備

② 水源環境保全・再生施策の取組主体

森林整備等の水源環境の保全・再生のための取組は、県が中心となって推進すべき施策です。

水源開発を目的とするダムの建設費用の大宗とその維持経費は、水の受益者が水道料金により負担してきました。

しかしながら、水道事業者は幅広い水源環境保全・再生施策を直接行う義務までは負っておらず、また、水源地域の市町村のみが、下流域の多くの住民のために、自らの一般財源から水源環境の保全・再生の費用を負担することは不合理であると考えられます。

したがって、水道事業者や市町村が水源環境保全・再生の取組を進めることには限界があり、水源環境保全・再生施策の対象地域は市町村域を越え広域にわたることから、県が中心となって推進すべき施策と言えます。

③ 特定の財源を確保する必要性

水源環境保全・再生施策は、受益者が負担する水道料金で賄われてきたダム建設等と密接不可分な一連の取組であるため、その財源は、受益と負担の関係を考慮して、県において一般財源とは別に特定の財源を確保することが必要です。

特定のサービスからの受益と負担の間に密接な関係があるなどの場合は、できる限り受益のある方に負担を求めることが望ましいと考えられます。

従来水源開発のためのダム建設等の事業は、水の利用者が負担する水道料金という特定の財源を基本に推進されてきたものであり、現在行っている水源環境保全・再生の取組についても、ダム建設等と密接不可分な一連の取組であるため、受益と負担の関係を考慮して、県民の皆様のご負担による特定の財源で推進することが望ましいと考えられます。

また、継続的・安定的に事業を行うため、一般財源とは別の独立した財源が確保される必要があります。

④ 具体的な財源確保方策等

個人県民税の超過課税（水源環境保全税）を継続し、特別会計及び基金により、税収の用途を明確にします。

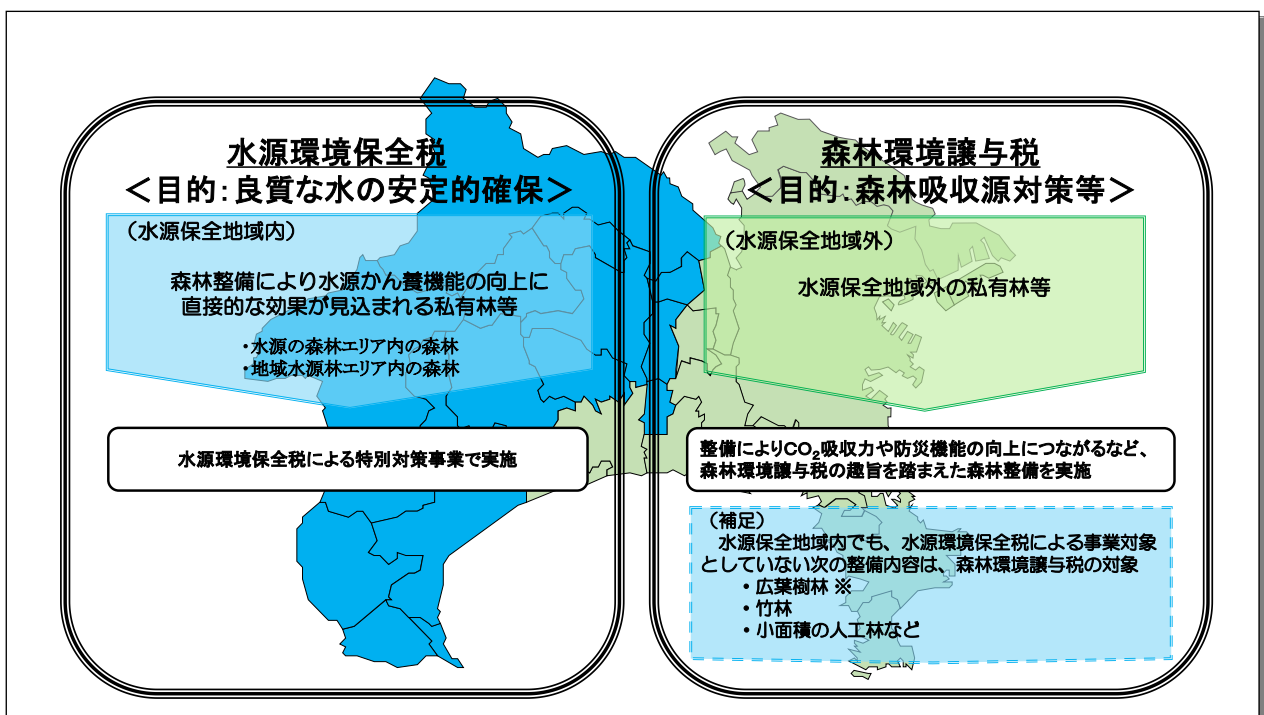
水源環境保全・再生施策を推進するための財源を確保するため、受益と負担の関係を考慮し、水の利用者である県民の皆様にご負担いただく方式として、個人県民税の超過課税（水源環境保全税）を継続し、その税収を特別会計内に設置した基金で管理することにより、用途を明確にします。

⑤ 森林環境譲与税との関係

県と市町村が連携・協力しながら、森林環境譲与税と水源環境保全税とを効果的に組み合わせること
 ことで、県内全ての森林の保全・再生を図ります。

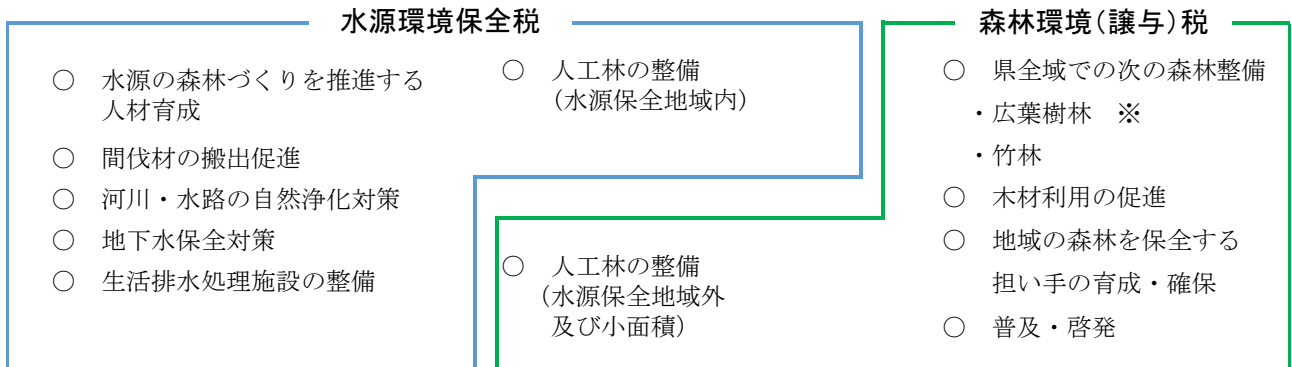
森林環境譲与税は、森林の保全・再生を図り、温室効果ガス排出削減目標の達成などを目的とするものです。県内市町村に譲与される額の約7割が水源環境保全税を充当した事業の対象とならない市町村に配分されております。本県においては、水源環境保全税により水源地域の森林の適正な管理等を行い、森林環境譲与税により、木材利用の促進と水源地域以外の森林の適正な管理を行い、両税を効果的に組み合わせ、県内全域の森林の保全・再生を行っていきます。

森林整備等に充当する財源のすみ分け



青色：水源保全地域内
 緑色：水源保全地域外

両税の使途（イメージ）



※水源の森林づくり事業や土壌保全対策で行う広葉樹林の整備は、水源環境保全税を活用。